

公民館はどうなるの？

市内各地に順次建てられ、30館となった公民館は、地域の学習や町づくり、住民サークル活動の拠点として大きな役割を果たしています。しかし今、行政改革の流れの中で、公民館は大きな曲がり角にきています。

出張所との「一元化」で専任職員へらされる

30館のうち17館は、旧出張所と併設の形態ですが、昨年から「一元化」して「市民センター」となりました。これまで出張所、公民館が別々に仕事をしていたのを、どちらの仕事もする形に改められたのです。市民から見れば、同じ建物にいるのだからお互いに協力するのは良いことですし、サービスの向上になります。

ところが、現実に「一元化」が始まると、公民館側の常勤職員が減らされてしまい、長年つちかってきた公民館事業に支障が出る事態が起こってきました。もともと公民館は、館長は非常勤、主事は嘱託、主事補はパートという安上がりな体制なのに、そこを「行革」の名でカットしたのです。主事のいなくなった館が5館もあります。出張所側の職員もギリギリの人数ですから、公民館の仕事に責任を持つだけの体制は組めません。

地域が大事と言いながら、やることが中途半端

だっ広い鈴鹿市に対応した行政サービス機関として、23地区の出張所と30小学校区の公民館は大切な役割を果たしてきました。市役所本庁だけの亀山市と比べても、各地に窓口のある鈴鹿市はより住民に近い行政体になっていると思います。市民センターへの一元化は、さらに住民サービスを良くするという建て前で行なわれたのに、実際は人べらし、金べらしという面ばかりが見えてなりません。こんな中途半端はやめて、意欲を持って地域住民とともにがんばる職員を作っていく方向を打ち出すべきです。

今年 は建設水道委員会、総合計画特別委員会に

5月臨時議会の役員改選で、私の今年度の所属委員会は、建設水道常任委員会、特別委員会は新たにできた総合計画特別委員会となりました。

建設水道委員会は、市の機構でいうと土木部、都市整備部、水道局を所管します。また総合計画特別委員会は、3月議会の所信表明で川岸市長が「開始年度を平成18年度とする新たな総合計画の策定作業を開始する」と宣言したことを受けて、議会の側からも計画策定に向けて議論の場を作ろうと、私や他の議員からの提案により設置したものです。これから2年かけて、しっかり議論をしたいと思います。

また、今年には「国民健康保険運営協議会会長」という役もいただきました。2年連続値上げしてなお赤字体質という、国保事業のあり方について議論する場です。くらしが年々悪化していく中で、市民の健康と医療をどう保障していくのか、これも大事なところです。

鈴西小学校通学路の歩道設置などが事業化

5月26日に最初の建設水道委員会が開かれ、16年度の各部の主な事業の説明がありました。新しいものとしては、近鉄伊勢若松駅前広場の整備、小田町のJR関西線をまたぐ道路橋の架け替えなどがありますが、道路、河川、下水道のどれも何年かの継続事業で、予算がきびしくなる中で完成が先に延びがちです。

小中学校の通学路になっている何本かの市道の歩道整備も、事業化されています。西部では、鈴西小学校から農村環境改善センターまでの市道に歩道が設置されます。鈴西小と鈴峰中の通学路のなかでも危ない所だと、10年以上も前から私も議会質問で求めてきた道路で、今までたいした事故が起きなかったことが不思議なくらいです。1日も早い完成を願います。

国府台団地への1本しかない道路も、歩道整備にかかります。ここも山越えの坂道に急カーブの道路で、長年の懸案でした。このような危ない道路が、市内各地にいっぱいあります。予算がきびしい中でも、通学路になっている道路はまず優先して事業を進めるべきです。

公園事業では、八野町の旧ゴミ処分場跡地に整備している「深谷公園」が、あと2年ほどで一部供用となります。全体では20haの本格的な総合公園です。また平田2丁目の国有地を買い取って街区公園を作ります。

いまの市役所本庁舎には「非常口」がない？！

新庁舎建設の工事現場は、現庁舎の東側にピッタリとくっついています。そのため、もとの正面玄関も東口も閉ざされて、本庁舎には西側の出入口1ヶ所だけが残されている状態です。市長も議員も職員も市民も、この出入口を使っています。もし、災害時にこの出入口が使えなくなったら、中にいる人は「袋のネズミ」になってしまいます。

災害対策の本部が「窓から逃げます」ではオソマツ

私が3月議会の総務委員会で、「もしもの時は、どこから逃げるのか」と聞くと、「窓から逃げます」との答えでびっくりしました。1階の市民課にはお年寄りも赤ん坊もいる、2階には市長はじめ3役がいて、防災安全課があって、いざという時は災害対策本部にもなる、3階には議会がある、ここが肝心の時に動けなくなったら、一体鈴鹿市はどうなるのでしょうか？

先日の建設水道委員会で、あらためて建築防災の担当にこの問題をたどしました。「市民に指導する前に、まず自分の足元、本庁舎の防災対策をきちんとすべきではないですか？」至急に新庁舎建設室など関係者で対応策を検討することになりました。

現庁舎はあと2年で壊すことになっていますが、しかし新庁舎に引っ越す前日までは、あくまで司令塔の役目を果たさねばなりません。この2年の間に何も起こらない保証はないのですから、きちんとしたマニュアルを備えておくべきです。私は「どうせ壊す建物だから、格好かまわずどこかに穴を開けて非常口にしては」と提案しているのですが。

お知らせ

6月定例議会が開かれます

6月8日から25日までの日程で定例議会が開かれます。今回は、議案はあまり多くありません。一般質問は14日から16日の3日間で、CNSでのテレビ中継(20チャンネル)があります。

ご意見やご相談があれば、どうぞお気軽にご一報ください。

Eメール jcp-suz@mecha.ne.jp

ホームページ <http://www.jcp-mie.jp/ishida/>

「ケータイを持ったサル」

IT時代が叫ばれて久しくなり、私のような中年後期のオジサンも、今や携帯電話を毎日持ち歩いて仕事や生活をしている。なるべく近寄ることを避けてきたパソコンにも、ついに今年から毎日付き合うようになり、自分のホームページまで持つに至ったことは、われながら驚きである。しかし、これは私がITに順応したのではなく、かろうじて世の流れに置いて行かれないように必要最小限の学習をした結果である。その証拠に、携帯電話はコードレス電話以上の使い方ができない。パソコンのメールやホームページ、今書いているこのレポートも、教えてもらったマニュアルどおりに使っているだけで、ちょっと操作を間違えるととんでもないことになってしまう。真空管ラジオからスタートしたわがアナログ頭脳は、IT言語を昔の言葉に「翻訳」できたものだけを、やっと理解するのであって、それ以上は頭がというより、体が受け付けないのである。

器械は「高度化」したが、情報はたれ流し

「高度情報化社会」と言われるが、私が見るところ、たしかに器械は日進月歩ですばらしい発展を遂げた。しかし、その素晴らしいIT機器で送られてくる情報は、大して昔と変わらない。ただ大量に、広範囲に、瞬時に情報が流れてきて、やたらと忙しくなり、情報の選択に手間がかかり、何が正しいのか、どんな意味があるのか考えるヒマがなくなって疲れる。それでも情報に常に接してないと遅れてしまうような気になって、さらに疲れるといった悪循環に、陥っている人が多いのではないか。

駅でバス停で、歩きながら運転しながら、どこにいても皆がケータイをいじっている、だれかと話している。いったいそんなに急いで話す必要があるのかといえば、「元気？」とか「何してる？」程度のどうでもいい内容がほとんどである。中身よりも、つながっていることが重要なのである。

いま話題になっている「ケータイを持ったサル」（正高信男著・中公新書）は、「現代日本人は年を追って、人間らしさを捨ててサル化しつつある」と断言している。面白いが、読んでいると恐ろしくなってくる。このサル研究の専門家の言っていることが、確かに当たっていると感じるからだ。